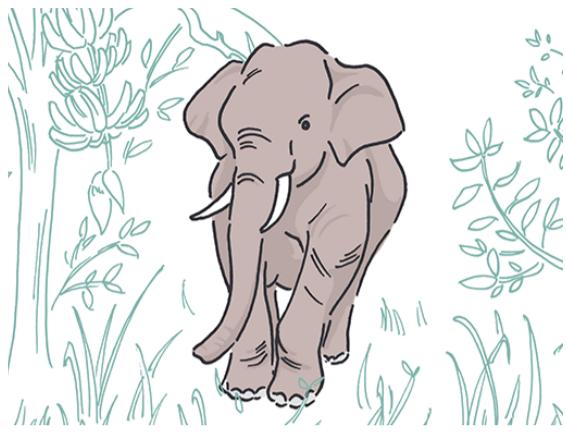


《ブータンの野生動物》



アジアゾウ
Asian elephant
絶滅危惧 I B類 (EN)

インドから中国、東南アジアの広い範囲に生息するアジアゾウは、推定4~5万頭で、そのうちTraMCAに生息するアジアゾウは2000頭だと推定されています。豊かな森と水量豊富な河川があるTraMCAはアジアゾウにとって残り少ない広大な生息地が残る重要な地域です。

主に草や木の枝や葉、樹皮、根、果実などを食べます。野生のバナナも大好きなので、森はゾウのけもの道にバナナの木が連なっています。ゾウが食べて分離することによって、種子散布のお手伝いをするからです。また土に栄養を与えて他の植物が育つ助けにもなり、他の野生動物もその恩恵にあずかっています。

生息地の減少・分断、牙を狙った密猟、人間との衝突など様々な脅威にさらされています。



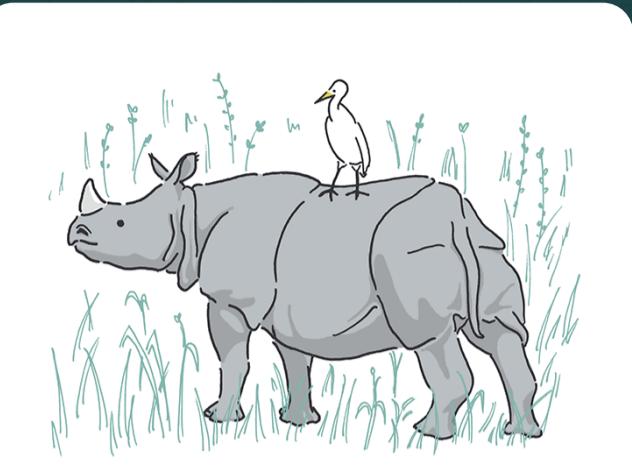
ベンガルトラ
Bengal tiger
絶滅危惧 I B類 (EN)

ベンガルトラはアムールトラに次ぐネコ科最大級の動物です。生息地はヒマラヤの4000m級の高地から低地の森林地帯などに広くまたがっています。運動能力が高く、泳ぎも上手です。

20世紀はじめ、アジアに広く分布していた10万頭を超えるトラは、急速な経済開発に伴う生息地の破壊や密猟などで、2010年には推定3200頭にまで激減してしまいました。

そこで寅年の2010年、International Tiger Conservation Forumという国際会議で、次の寅年2022年までにトラを倍増させるという計画が持ち上がりました。ロイヤル・マナス国立公園は、トラ倍増計画の最重要拠点の一つとなりました。

そして2020年、ブータンとインドの協働による自然保護活動が実り、2022年を待たずして個体数は倍増しました。これからもトラ保護において、ブータンの役割は重要です。



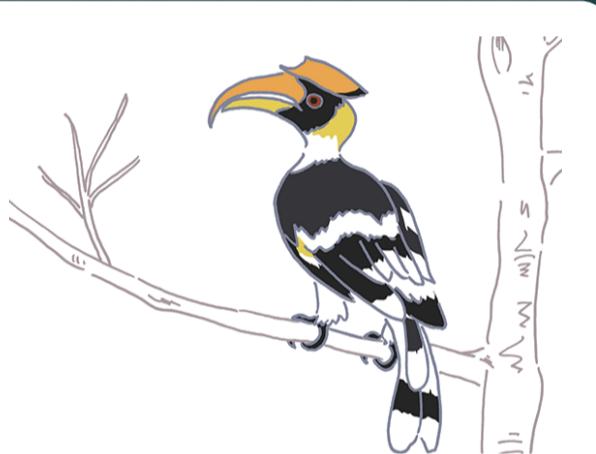
インドサイ
Indian rhino
絶滅危惧 II類 (VU)

かつてヒマラヤの南麓に広く生息していたインドサイ。しかし現在の生息数は全体で2200頭をきっています。生息数減少の原因は、農地開拓による生息地の減少、外来種による植生の変化、ツノ目当ての乱獲や、スポーツハンティングの標的にされたことなどです。

鎧のようなぶ厚い皮膚の間に伸縮可能な柔らかい皮膚があります。30~60cmのツノをオスメス共に持ち、肩高は最大2m、体長約4m、体重は約2トンの、まさに大型哺乳類です。

TraMCA ランドスケープのアッサム側に生息していたインドサイは、一度は絶滅してしまいました。現在はインドの別の国立公園からトランスポーテーションされた個体が生息しています。

密猟を取締まり、サイの棲む生息環境を守り、保全を進めなければ再び絶滅してしまいます。

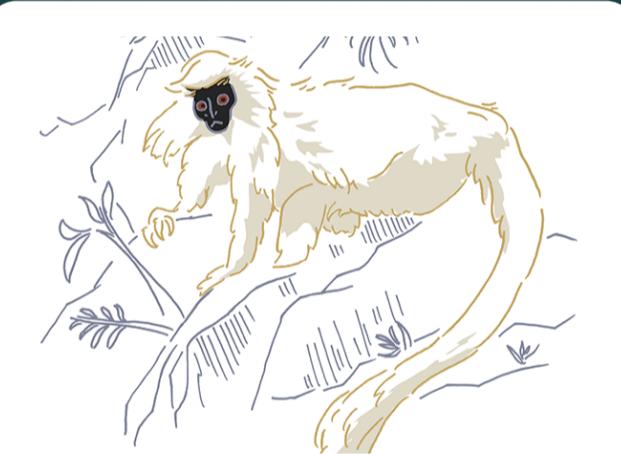


オオサイチョウ
Great hornbill
準絶滅危惧種 (NT)

多様な森林をもつブータン国内には、鳥類にとっても多様な生態系があります。670種類以上の鳥類が生息し、うち固有の種は221種、そして多くの渡り鳥が飛来します。

オオサイチョウはブータンの鳥類の中でもユニークでダイナミックな鳥類のひとつで、羽を広げると150cmほどになります。大きな嘴とその上の『カスク』と呼ばれる突起が特徴で、これがサイの角に似ているため『サイチョウ』と呼ばれています。カスクの役割は、鳴き声を反響させるスピーカー、オスがメスにアピールするため、オス同士の戦いの時にぶつけあうため、などの説があります。森林伐採により、子育てできる大きな木が減っていることで巣作りが難しくなっています。

他にも鳥類は絶滅危惧種のオグロヅル、シロハラサギ、キガシラウミワシ、オオカワセミなども見られます。



ゴールデンラングール
Golden langur
絶滅危惧 I B類 (EN)

ゴールデンラングールはブータン南部とインド・アッサムにまたがるマナス川流域の、限られた場所にだけ暮らしている希少種です。体長50~75cm、体重約8kg、尾っぽは75~100cmになり、若干オスの方が大きくなります。黒っぽい顔以外は、その名の通り白銀~金色の体毛で覆われています。

1頭のオスが数頭~十数頭のメスとともに群れを作って暮らしています。林間を好み、標高3,000mの高地に棲むものもあり、なかなか人目につくところには現れません。またその姿から、多くのヒマラヤの人々にとって神聖な動物とされてきました。

生存する個体はわずか6,500匹で、レッドリストでは絶滅危惧 I B類に指定されています。

他にもサルの仲間は、ハヌマンラングールやアカゲザル、アッサムモンキーなどが生息しています。



ブータンシボリアゲハ
Ludlow's bhutan glory
絶滅危惧 I B類 (EN)

ブータンシボリアゲハは、1933年と34年にイギリス人探検家に発見されて以来、姿を見ることはできず、世界中の研究家や愛好家が追いかけていた幻の蝶でした。

しかし78年ぶりの2011年、日本とブータンの合同調査隊によって、ブータン東部のタシヤンツェ渓谷の森林で再発見されました。

開張12cm前後で、黒地に白か淡い黄色の筋が何本もあり、3つの尾を持ち、翅に大きな赤い紋があるのが特徴です。その模様の美しさから『ヒマラヤの貴婦人』とも呼ばれています。

2012年、ブータンの「国のチョウ」に指定されました。ちなみに「国の動物」はターキン、「国の花」はブルーポピーです。

秘境ブータンには、まだ新種の動植物が存在すると言われています。

ブータンの自然保全活動にご協力ください！

ブータンの他に類を見ない、多様な野生動物が息づく「奇跡の谷」を一緒に守りませんか？
ご寄付は3000円から。用途は以下の、保全のためにはどれもなくてはならない活動に当てられます。

- レンジャーたちのパトロールのためのギアの調達
- 「人と野生動物との軋轢 (HWC)」に対応するための地域の人々の人材選抜・育成・研修
- 密猟防止のための管理・監視システム「SMART」の整備と運用する人材育成

詳しくはこちらから ⇒ www.uapacaa.org/bhutandonation2021.html

地球の未来につながるご支援をお待ちしています！